

# 時代「近代」

明治に入り電報が普及すると、各地の米相場が瞬時に伝わるようになり、地域間価格差を利用して利益を上げていた廻船業者は次々と廃業していきます。そこで阿知須浦廻船は石炭輸送に活路を見いだします。宇部鉱山を抱える阿知須の石炭廻船業者は石炭の輸送だけでなく、買い付けから販売まで一手に手がけました。

日露戦争後の石炭需要の急増によって阿知須廻船業はピークを迎えます。しかし、やがて宇部鉱山組合が合理化の為に、阪神圏での直接取引や自社輸送を始めると、阿知須廻船は急速に衰退していきました。



阿知須浦廻船



旧桃山一号配水池監視廊入口